

実践記録

176

シリーズ

小千谷市勤労青少年ホームの取り組みについて

小千谷市勤労青少年ホーム 指導員 加藤 圭

●はじめに

小千谷市勤労青少年ホームは、仕事を終えた青年たちが、教養講座やクラブ活動などを通し交流を図る拠点として、また悩みごとを気軽に相談できる場所として日々活用されています。

青年たちが組織する利用者協議会は、おぢやまつりへの参加やホーム祭の準備や運営に自ら積極的に係わることで、活動がより充実し、さらにメンバーも増え盛り上がりを見せています。

ところが数年前までは、利用者数が減少傾向にあり、何とか歯止めをかけ利用者を増加させるため、様々な取り組みを行ってきました。

その結果、数年前より利用者数が回復に転じ、昨年度は、最低時100人だった利用登録者数を300人まで増加させることができました。これは利用者の青年たちから、私たちの取り組みが一定の理解と賛同を得た結果だと思っています。

そこで今回は、私たちが行っている教養講座の取り組みについてご紹介したいと思います。

●講座を長期から短期にリニューアル

以前は長期の講座が中心で、どの講座も参加者が頭打ちの状態でした。

また、雇用情勢の悪化により、数か月先の予定が立てにくくなり、その結果長期講座が敬遠され参加者の減少につながっていました。

このため、長期講座を細分化して短期講座とすることで、参加しやすい状況を作ったところ好結果が現れましたので、その後段階的に講座の短期化を進めてまいりました。

また、副次的な効果として、短期講座としたことで新規の講座を多数開催できるようになり、これが新規の利用者の掘り起しにつながり、勤少ホーム全体の利用者数の増加を後押しすることとなりました。



初心者テニススクール

●PRを強化して

以前の広報の手段は、『ホームだより』という冊子と、市の広報紙やホームページへの掲載などに限

られていました。

そこで講座の短期化にあわせて、講座ごとにカラーポスターを職員が手作りして、市内の公共施設や大型スーパーなどに掲示することとしました。

また、市内の各事業所や利用者に毎回チラシを発送したり、FMラジオに情報提供するなど積極的なPR活動を行っています。

●講座の企画・募集・運営などについて

講座数は、昨年度30講座、今年度34講座を開催する予定です。このため講座の企画・募集・運営・事後処理が常に重り、業務は複雑化します。しかし、講座の増加は募集を通じてPRするチャンスが増えることにもなりますので、これを最大限に利用できるように取り組んでいます。

また、講座の企画には、毎週のように顔を合わせている青年たちの会話や、彼らの目にする雑誌やウェブサイトなどを参考に、要求課題にも対応しながら、社会の要請である必要課題の要素も加味するように努めています。

このように、私にとって勤少ホームの業務の中で講座の企画が本当にやりがいを感じている業務の一つです。



クリスマスリース教室

●講座を開催している上での問題点

講座が増え参加者も増えてちょっと困ったこともあります。一つは無断キャンセルをされる方が増えてきたことで、なかには連絡がつかないケースもあります。もう一つは毎回人気の講座がすぐに定員となってしまふことで、受講をお断りする際に、少し心苦しさを感じることもあります。

●おわりに

小千谷市勤労青少年ホームが青年たちの生涯学習の拠点として、また心の拠り所として今後とも彼らに利用され活用され続けていく施設を目指して、私たちは日々の努力を重ね、ひたむきに事業を推進していきたいと思っています。